

第1章 私達の神様

この章のテーマ

1. 神様について考える&人間について考える、その時の焦点（基本点）がイエスキリストであることを理解します。
2. イエスキリストが、私たちに解き開いてくださった神様は、愛の神様（＝三位一体の神様）であることを理解します。

初めに、神が天と地を創造した。

（創世記1:1）

ことば
言（イエスキリスト）は、人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みと誠とに満ちておられた。いまだかつて、神を見たものはいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。
（ヨハネ1:14, 18）

イエスキリスト
私を見た者は、父（神）を見たのです。

（イエス様のお言葉:ヨハネ14:9）

キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。キリストは人の性質をもって現れ…
（ピリピ2:

1.信仰の中心：イエスキリスト

神様は、人が作り考えた神々ではなく、宇宙や時間など全てをお造りになされた創造主^{そうぞうぬし}です。

私たちは時に、「神様はどこにおられるのですか？ 見せて下さい」とか、「聖書を通して豊かな人間性をもちたいのですが…？」といった質問を受けることがあります。

その両方の質問に対する答えは、『イエスキリストである』と聖書に書かれています。

私たちはイエスキリストに焦点を合わせる時、神様と人間とをはっきり知ることができます。

そのことを、イエスキリストは「神の啓示^{ひいじ}（隠れていたものの現れ）」である、といます。

□ 創造主（神様）は… 一体誰なのか？ どのようなお方で？ 何をされるのか？

はイエスキリストにおいて啓示されていますし、

□ 人間は… 一体、どういう存在で？ どのように生きることができるのか？

もイエスキリストにおいて啓示されています。

この意味で、キリスト教の中心はイエスキリストであると言うことが出来るのです。

そして、クリスチャンとは、このイエスキリストを主として信じる人の事なのです。

（ロ-マ10:9,ヨハ3:16）

イエスキリストによってハッキリ私たちに現わされた神様は、あなたを愛し、あなたを含めた全てを創造し、聖なる善なるお方であり、あなたを救い、祝福し、あなたと共にいてあなたを捨てない唯一のお方なのです。

また、人間は、イエスキリストの^{さま}様に似せて生きようと造られました。しかし人間がどのような存在で、どのように生きるのかは、第4回で学びたいと思っています。



<啓示がない>

人間の小さな頭脳、罪によごれた心では、神様についてだけでなく、人間についても、明確に知ることができません。

ですから、真理も、生きる意味も、価値も、未来についても、すべてがぼやけてしまっています。

イエス様を見ると…わかる



<啓示がある>

神様から啓示としてのみ子イエスキリストが下ってきてくださいました。

これにより…

イエス様を見ると、神様の思いや考え、神様と私たちとの関係を知ることができます。

イエス様を見ると、人間の尊さ、生きる目的も意味も、明確に知ることができるようになりました。

2.三位一体の神様；愛の神様の中に、私達を

イエス様が啓示してくださった神様は、「三位一体の愛の神様」でした。

それはすばらしく驚くべき真理でした。

三位一体という言葉は聖書の中にはありませんが、それを示す箇所は聖書のいたるところに見られ、神様ご自身について知ることのできるとても重要な内容です。

神は愛です。 (1ヨハネ4:16)

*神=愛とっています。これについては後からご説明させていただきます。

そして神は言われた、「われわれのかたちに…」 (創世記1:26)

*ここで「神」は複数形名詞、「言われた」は単数形動詞、「われわれ」は複数形名詞です。

父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け… (マタイ28:19)

*父と子(イエスキリスト)と聖霊はそれぞれ人格をもっておられます。すると普通「御名」と言った場合複数形になるのですが、ここでは単数形です。

御霊は一つです…主は一つ…全てのものの父なる神は一つです。 (エペソ4:4-6)

*しばしば、父と子(=主イエス様)と御霊(=聖霊)とが並列して書かれます。

しかし、あなたがたは私を見ます。私が生きるのだからあなたがたも生きるからです。その日には、私が父におり、あなたがたが私におり、私があなたがたにおることがあなたがたにわかります。(イエス様の復活後に与えられる神様との交わりへの参照箇所/ヨハネ14:19,20)

■神は愛です

この言葉は、神様の属性(神様は深い愛をもっておられるというご性質)だけではなくて、その在り方をも表しています。愛は、関係を表す言葉であり、愛には相手が必要です。

聖書によりますと、

神様は唯一でありつつ、父と子と聖霊という三つの人格の合体であることがわかります。

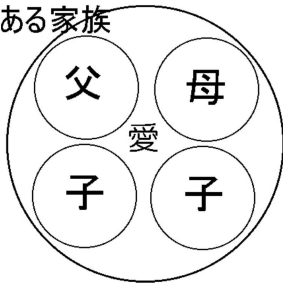
そして、それぞれの間の交わりは完全な愛(神様の愛、完全な愛、一方的な愛)の関係にあり、常に一致した人格として存在され働かれるのです。

*「アガペー」はギリシア語です。

例えをもってご説明いたしましょう。

神様は、私達に家族というものを与えてくださいました。その家族というあり方は、三位一体の神様に似せて造られていると考えることができます。

ある家族



ある家庭には、父・母・子どもたちがいます。

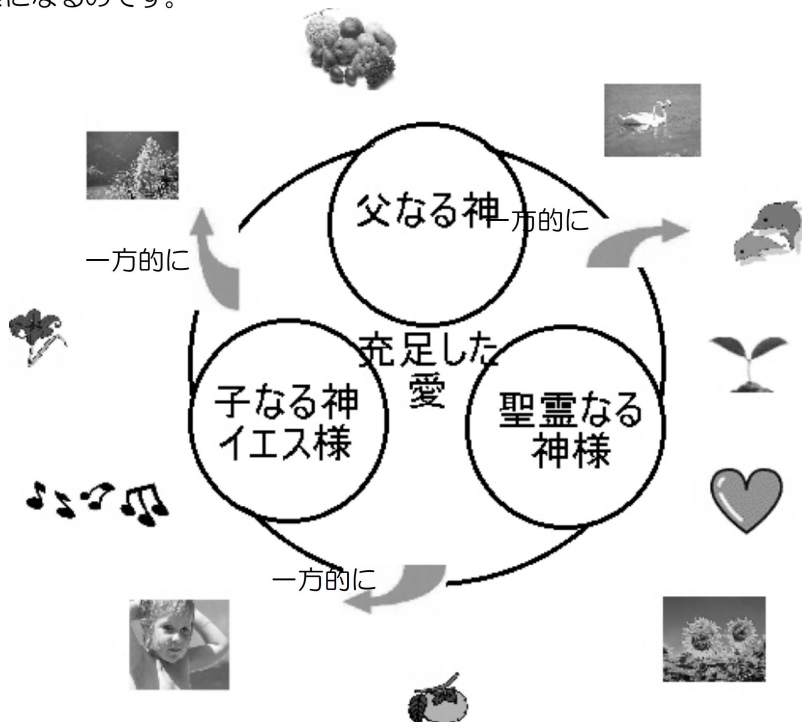
皆それぞれに人格をもっています。

それでありながら「～ファミリー」という名称をもち、家族として一つです。同じように、神様もまた父と子と聖霊という人格をもちながら、「神」という名前をもち、アガペーによって完全に一致しておられるのです。

神様の愛は完全であり、神様の内において満たされ充足しています。

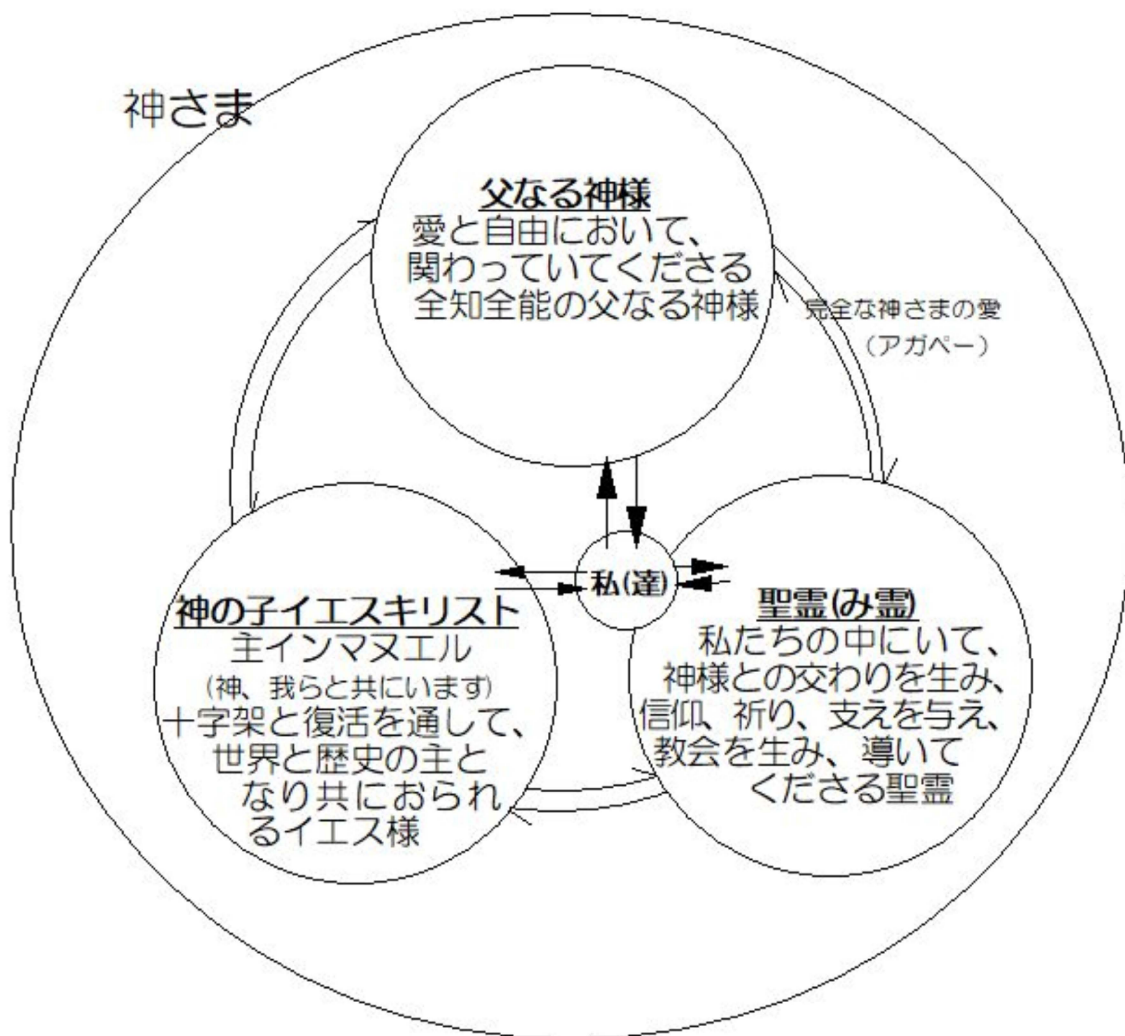
神様はそのご自身の内に溢れる完全に自由な愛の現れとして、宇宙、世界、人類などを創造されたのです。

ですから、すべてのものを一方的に(私達が神様を愛しているかどうかにかかわらず)愛し、祝福することがおできになるのです。



■下図は、愛の神様が、あなたに三つの関わり方をもってくださることの説明です。

「あなたが神様の三位一体の愛の交わりの中に包まれて生きる」ということが救いの本質であることを示しています。



「キリストの愛が私たちを取り囲んでいる」
(Ⅱコリント5:14)

■神様が三位一体の愛の神様であるというイエス様の教えは驚くべきものでした。

なぜ驚くべきことなのか？一緒に考えてみましょう。

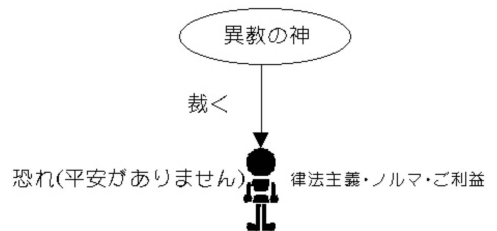
●三位一体の神様以外のものを神様としている教え

三位一体の愛の神様以外の神を説くいろいろな宗教があります。

その宗教はこのように言うのです：「神様は聖く正しい方で高い天の上からあなたの行動と心の中を逐一見ておられる」。 そう聞いた時、人の中に起こる反応は「恐れ」です。その恐れを解消するために人々は以下の例に挙げたようなことを試みます…

- ・律法主義：しなければならないこと、してはならないことを定めて、それを守っている限り神様の裁きから逃れられると考えます。
(この場合、人は表面的になります。また律法でお互いを裁き合うようになります)
- ・ノルマ主義：ものみの塔や統一協会などの教えは、ノルマを課し、それを守るようにと強要します。ノルマを果たすことで恐れを解消しようとしています。
(この場合、大きな犠牲が払われるにも関わらず平安はありません。)
- ・ご利益宗教：お金や奉仕をすることによって、神との関係を保とうとします。

このように多くの宗教は、恐れをその原動力にしています。それゆえ本当の平安を得ることは出来ません。



●三位一体の愛の神様

神様は確かに正しいお方です。

父なる神様は私達の行動も心の中もよくご存知です。でもそれだけではありません。

み子イエス様は、私達のところに来て、神様のご愛と赦しを明らかに示してくださいました。

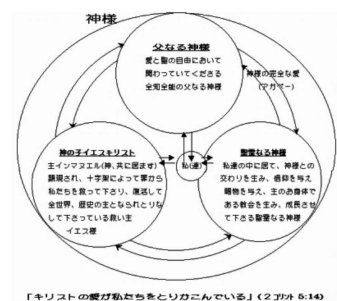
その証として復活され、私達と共に歩んでいてくださいます。「あなたは赦されている。愛されている。生きる価値がある。生きてゆこう。」といていてくださるのです。ですから、私達は何度失敗しても再び立ち上がることができるのです。それだけではありません。

聖霊は私達の中に来て、信仰や祈りを与え、私達を神様の子どもとして励まし、助けてくださるのです。

三位一体の神様の交わりの中には、愛と平安があるのです。

神様は、愛の神様なのです。

三位一体の神様は、その愛の中にあなたを招いておられるのです。



マイルーツクラス 解答用紙

マイルーツクラスの解答用紙です。

各章2枚ずつになっています。

できれば、マイルーツを学んだその日の内に解答用紙に書き込みください。

次回のマイルーツの最初に、答え合わせをいたします。

点数が問題なのではなく、分からない処をはっきりさせるためです。

その時に遠慮なく、質問もしてください。



名前

1. 次のうち、正しいと思うものに○印を、まちがいと思われるものに×印をつけてください。 (各4点、40点)

- 神さまが天と地を創造されました。
- 「私を見た者は、父（神）を見たのです。」と言ったのはパウロです。
- 聖書に記されている神と、日本の神棚に飾られている神とは同じ神です。
- 私たち人間はとても賢いので、自分の考えで、神さまのことはよくわかります。
- 私たちは神さまのことばかりでなく、人間のことさえも、はっきりわかりません。
- 神さまが三位一体である、ということは聖書のいろいろな箇所を示されています。
- 人間の家族に似せて、神さまも三位一体に造られました。
- IIコリント5：14には、「キリストの愛が私たちを取り囲んでいる」と書かれていて、これは三位一体の本質をあらわしています。
- 三位一体の神でない時、神様と人との関係は結局、「恐れ」になってしまいます。
- イエスさまに心と信仰の焦点を合わせると、神さまと人についての真理がわかってきます。

2. 次の文の、□の中に適当と思う字を入れてください。(□に一字ずつ)

(各10点、50点)

- a) 神は唯一でありつつ、□と□と□□という三つの人格（神格）の合体です。

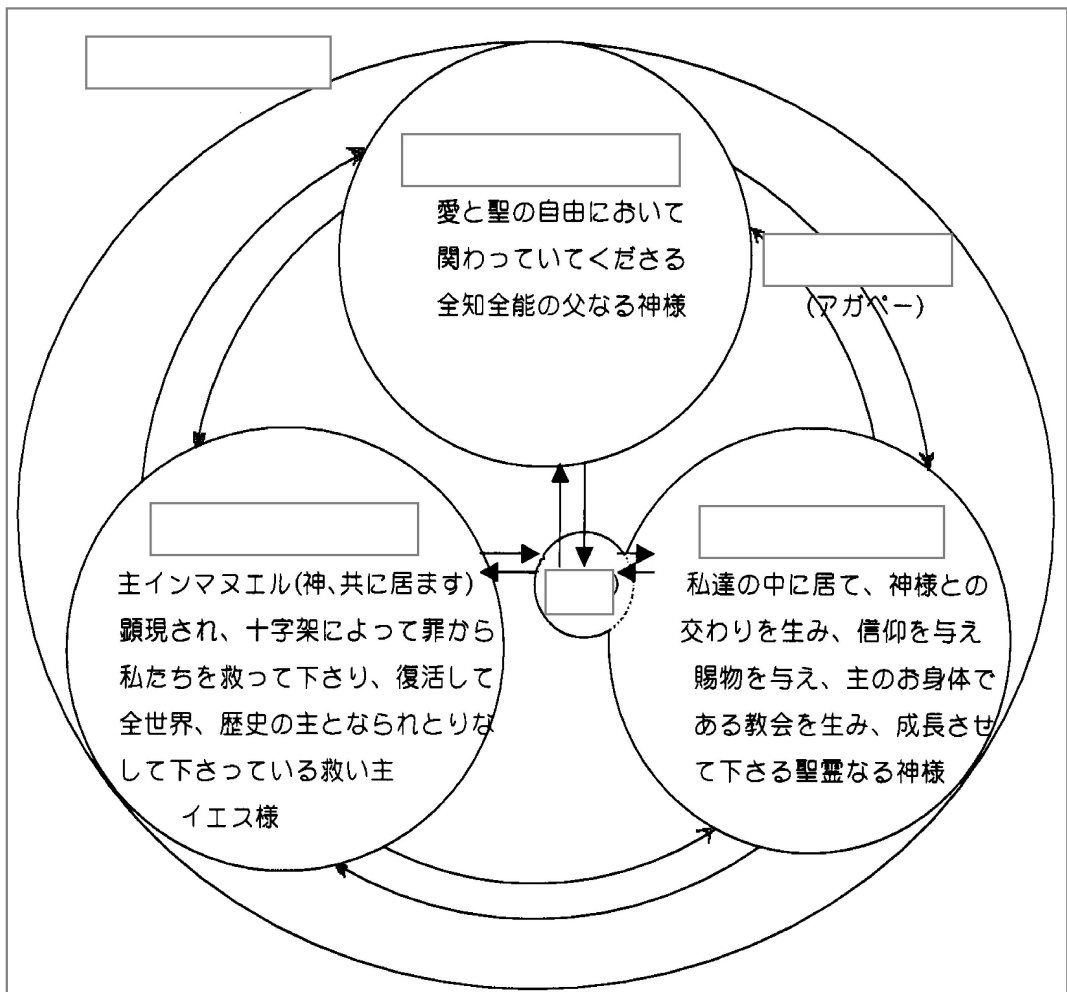
b) 神様について考えることは、□□□さまについて考える事と同じです。

c) 神は□です。(1ヨハネ4:16)

d) 神様の愛は□□です。

e) あなたが神様の三位一体の□の□□□の中に包まれて生きることは救いの本質です。

3. 下の図を完成させてください。□は一字ではありません。(10点)



4. 何かご質問があればどうぞ。